



平成 21 年度事業

「高松沖海底ゴミ一掃キャンペーン」事業報告書

1. 事業名称

『海底ゴミ 目に見える化 計画』

海底堆積ゴミ一掃大作戦 2009 in 高松沖

2. 事業趣旨

私達の暮らす瀬戸内海は、多くの先人達が守り育ててくれた風光明媚な多島美と温暖な気候に恵まれた世界に誇れる美しい海です。

また、瀬戸内海の漁業は、春には鯖漁(サワリヨリ)で始まり、キス・真鯛・チヌと多くの魚種がとれ、夏はスズキにマナ鰹、秋は水イカ・渡りカニ、そして冬はタイラギ貝に海苔・ワカメと新鮮な魚介類を1年中私達の食卓に届けてくれます。

その瀬戸内海にあって、豊島の産業廃棄物の不法投棄問題は、直接的に人の目に触れる事により、多くの人々に衝撃を与え産業廃棄物の抱える大きな問題を提起してくれました。

今、この豊島周辺地を含む瀬戸内海全域に、1万3千トン余といわれる大量のゴミが河川を通じ、また心無い人々の手によって直接投棄され、深く海底に沈殿しています。

海底に沈殿・堆積しているが故に、永く放置されてきたこの問題を、多くの漁業者と協力し民間人の目線からその抜本的解決方法を模索し、実験回収を通じ瀬戸内海に沈む海底堆積ゴミを一掃するための回収システムの構築・提言を図る。

また、小型底引き網漁船による海底ゴミの回収・分別作業を子供達に見せるという「環境教育」を通じ、広く市民に対し海底堆積ゴミ問題の現状と海洋資源保護の大切さについて情報発信し、これらの海底堆積ゴミを今後増やさないための発生抑制の一助にしたい。

私達は、後継者不足に悩む小型底引き網漁業者にあって、健全な漁業活動(操業)が可能な時期に魚と同時に引き揚げられる大量の海底ゴミを回収し、完全一掃しなければならないと強く感じており、未来に海底の環境破壊という「負の遺産」を決して残してはならないと考えます。

3. 事業形態

主 催 : NPO 法人瀬戸内オリーブ基金

主 管 : 海守さぬき会

回収協力 : 高松市瀬戸内漁業協同組合・香西漁業協同組合
女木島漁業協同組合・男木島漁業協同組合

研究協力 : (財)水島地域環境再生財団
高松大学大学院 ベンチャークリエーション研究所・正岡利朗教授

後 援 : 財団法人 海上保安協会・高松市

記 録 : 牟礼ビデオクラブ

4. 事業開催日時

平成 21 年 8 月 2 日 (日) より平成 21 年 8 月 20 日 (木)

5. 開催場所

市内四漁業協同組合とその操業区域内

■協力漁業協同組合

高松市瀬戸内漁業協同組合 : 北野広治 組合長

香西漁業協同組合 : 新開義明 組合長

女木島漁業協同組合 : 橋本時雄 組合長

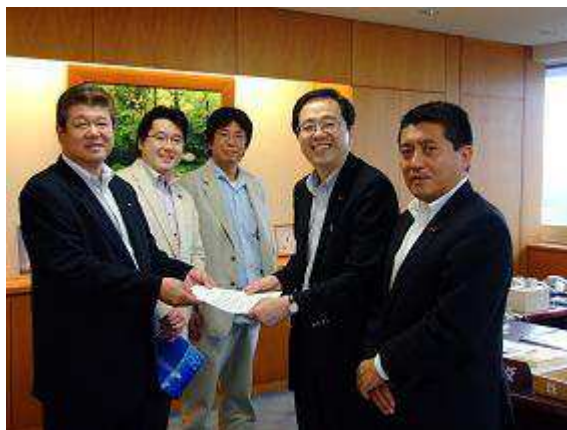
男木島漁業協同組合 : 濱川貞雄 組合長

6. 実施経過概要

- ① 平成21年5月10日総会において「海底堆積ごみ問題チャレンジ議案」提案された。



- ② 5月下旬 NPO 瀬戸内オリーブ基金へ事業資金の助成を依頼する。
同基金が主催、海守さぬき会が主管の協働事業として合意した。
- ③ 5月下旬～6月下旬、協力要請を高松市、香川県、各単位漁協・底引き網部会ごとに実施詳細を説明し、実験事業への参加協力を依頼した。
- ④ 7月10日、斉藤鉄夫環境大臣に対し、瀬戸内海における海底堆積ゴミの現状とその完全回収の必要性を訴え、政府による早期回収の実現を要望する。
(中條会長、オリーブ基金事務局上京、海上保安協会海守事務局同行)
尚、瀬戸内オリーブ基金の支援のもと海守さぬき会と地元漁協の協力において、今回実験回収を実施する旨の報告も併せて行なった。



- ⑤ 各報道機関に対し、市政記者クラブを通じ取材の依頼要請を行ない広く広報活動をする。
7月30日 午前11:00～プレス発表(高松市役所5F 第52会議室)
- ⑥ 7月30日～8月1日協力漁協に回収ボックスを設置する。依頼業者:(株)ティエラル
- ⑦ 7月30日～8月1日 実験事業参加協力を頂ける漁業者に対し、操業時における海底ゴミの回収・持ち帰り事業の実施詳細の説明を行なった。

- ⑧ 8月2日（日）、午前9時より高松市瀬戸内漁業協同組合前において、実験回収の出発式を開催した。（マスコミ：NHK・RNC・朝日新聞・四国新聞他）



- ⑨ 8月9日（日）、一般公募による小学生と保護者20組を対象に、海底堆積ゴミの回収現場の視察会を開催し子供達に感想文等の提出・絵画の製作を依頼した。尚、見学会は海上タクシー2隻をチャーターし操業中の底曳き漁船（宮下篤船長）を両側より見学。乗船者には全員ライフジャケットの着用を要請した。また、(財)水島地域環境再生財団監修による海底堆積ゴミの環境学習会を男木島漁業協同組合2階会議室にて開催した。

（子供用ライフジャケットの提供は、高松海上保安部からの借用を断念し、海守東京事務局より手配、日本マリンスポーツ財団より25着借用した）

台風直撃前の大雨に見舞われ、午後の男木島海水浴場での昼食兼バーベキューは中止となった。子供達は非常に残念がっていたが、見学底曳き網漁で得られた魚、蛸、海老等をお土産に持って帰って頂いた。

（マスコミ：NHK・RNC・朝日新聞・四国新聞他同行取材）



- ⑩ 8月12日 高松市環境部（木太町）3階会議室において、国、県、市関係部署担当者と、今回の「海底ごみ見える化計画」について意見交換会を開催。次年度からの「海底堆積ごみ回収適正処理システム」構築のための問題と対策について第1回の会合を開いた。「高松市市民政策部地域政策課」が主催幹事として、次回からの会合を開催する事になった。

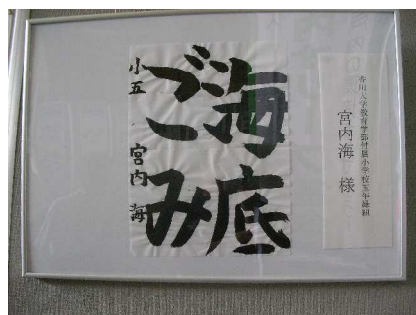
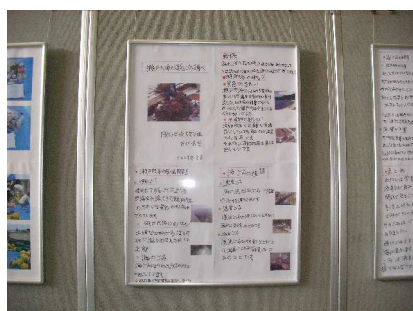
- ⑪ 9月9日 回収された海底ゴミを一般公開した。
 (取材マスコミ：西日本TV、瀬戸内海TV、朝日新聞、読売新聞、四国新聞他多数)



- ⑫ 9月17日・18日回収された海底ゴミの分別・調査を(財)水島地域環境再生財団監修のもと、高松大学大学院ベンチャークリエーション研究所の学生達(10名)と協力し実施した。
 分別作業の時短を図るため「高松市シルバー人材センター」より7名の人材派遣をお願いした。

- ⑬ 9月18日 上記分別した海底ゴミを一般廃棄物として行政(高松市)による無償処分を実施した。一部行政処分不可ごみを産業廃棄物と委託業者に廃棄を依頼した。

- ⑭ 9月24日～28日 海底ゴミの現状を捉えた写真・ビデオや子供たちの描いた絵画等を高松市役所玄関ロビーに展示し、海底ゴミの問題は身近な環境問題である事を市民に広く啓発し、今後海底堆積ゴミが増えないように発生抑制を推進した。



以上の活動により(財)水島地域環境再生財団監修により作成した、本事業活動の報告書&提言書を基に、報告会を開催する予定。

以上